

令和2年11月9日（月）に鳥類及び底生動物等の貴重な生息の場（鳥獣保護区）となっている七北田川河口の蒲生干潟において、宮城県環境アドバイザーによる現地検討会を開催しました。

冬期に七北田川河口部へ飛来するコクガンへの現場における配慮事項及び堤防周辺の仕上げ工事について報告・説明を行い、環境アドバイザーから意見をいただきました。

検討会の様子



○アドバイザーからの主な意見

- ・天然記念物のコクガンへの配慮について
8時前には現場に立ち入らないこと。9時までは、大きな音の出る作業はしないこと。
- ・堤防周辺の仕上げ工事について
転石、流木などを配置し、生物の隠れ家になるように配慮してほしい。
- ・干潟環境について
最近の調査結果を見ると、水質や環境が安定してきており、環境が安定した時の底生動物が多くなって来ている。干潟環境は改善傾向にある様に感じている。

○コクガンへの配慮（11月～3月）

コクガンは早朝に飛来し、川で水を飲んだり、寄州に上陸して羽繕いや休憩した後に飛び立つことから、早朝は人影や騒音などで驚かせないように配慮する。

コクガン飛来の様子



コクガン配慮の注意喚起



蒲生干潟全景（令和2年10月27日撮影）



コクガン（カモ目カモ科）天然記念物

コクガンの生息地要因として採食地の他に、淡水の飲水場や上陸しての休憩地がある。近年、砂浜に車両ごと立ち入って遊ぶ人が増えており、コクガンが必要とする安全な休息地を脅かす存在となっている。カルガモと同じぐらいの大きさ（約60cm）で、全体的に色が黒く、首に白い輪があるのが特徴。

※アドバイザーよりいただいた意見を踏まえ、引き続き環境に配慮して施工していきます。